

会社概要

(2011年2月28日現在)

社名	ソーバル株式会社
設立	1983年1月
本社所在地	〒146-0092 東京都大田区下丸子3-25-14 ソーバルビル
資本金	212百万円
事業内容	○エンジニアリング事業 ・ハードウェア・ソフトウェアのエンジニア派遣 ・ハードウェア・ソフトウェアの受託開発 ○その他事業 ・RFID製品・RFIDシステムの開発、販売
社員数	877名
ホームページアドレス	http://www.sobal.co.jp/

株式の概況

(2011年4月1日現在)

上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード) 市場
証券コード	2186
発行可能株式総数	7,400,000 株
発行済株式総数	2,171,900 株
単元株式数	100 株

株式手続き情報

(2011年4月1日現在)

定時株主総会	毎年5月
配当金受領株主確定日	第2四半期：8月31日 期末：2月末日
上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード) 市場
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
各種照会先	【諸届け】 住所・氏名のご変更、配当金受取り方法のご指定などに関するお問合せ、各種手続きに必要な書類のご請求はお取引の証券会社までご連絡下さい。 【特別口座で管理されている株式】 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 ※お問合せ：三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター（受付時間：土・日・祝祭日を除く平日9:00～17:00） 0120-232-711（東京）
公告方法	電子公告の方法により行います。但し、電子公告によることが出来ない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 【公告掲載URL】 (http://www.sobal.co.jp/stockholder/)

役員紹介

(2011年5月24日現在)

取締役会	代表取締役社長	推津 順一	執行役員	河原 浩一
	取締役副社長	推津 敦		稲葉 勝巳
	専務取締役	河原 浩一		宮澤 克行
		稲葉 勝巳		井上 一幸
	社外取締役	鶴飼 道夫		川田 美則
	常勤監査役	吉岡 秀勝		岩崎 恭治
監査役 (公認会計士)	金森 浩之	植田 年青		
	監査役 (弁護士)	小原 喜雄	西岡 建太	
			新居見 憲治	
		古屋 繁之		
		両瀬 賢一		
		大久保 仁美		
		猪狩 安広		
		林 雅伸		
		伊藤 光男		
		杉山 義雄		

お問合せ先


ソール株式会社
IR担当窓口
 〒146-0092 東京都大田区下丸子3-25-14ソーバルビル
TEL:03-5482-1420 (受付時間 平日 9:00～16:30)
 IRサイトアドレス：<http://www.sobal.co.jp/ir/>

事業報告書 2011

2010年3月1日 - 2011年2月28日 (第29期)

東北地方太平洋沖地震について

東北地方太平洋沖地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
皆様の安全と、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

ソーバル株式会社 / ソーバル株式会社社員一同

目次 Contents

- 4. 社長メッセージ
- 6. 事業概況
- 8. 第29期の総括
- 9. 今後の見通し
- 10. ソーバルの戦略
- 12. 業績ハイライト
- 13. 財務諸表
- 15. 配当政策、株主情報
- 16. 会社 / 株式情報

社長メッセージ

Greetings

4

Greetings

時下、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

企業にとって、最大の資源は人材です。

高い意識と技術をもつ人材が充実した環境で働くことが、価値あるテクノロジーを生み出す近道だと、考えております。そのチャンスを拡大するため、ソーバルでは仕事とプライベートのバランスを大切にす社風を築きました。加えて、企業活動に関わる全ての方の満足が、企業価値の向上に繋がるとも考えております。

長年、人材開発と教育に投資を続け、高い定着率とともに IT 分野の技術革新とその蓄積を続けてまいりました。技術力と経験豊富な人材を

合わせ持つ、国内有数の独立系組み込みシステム開発企業と、お客様からも高いご評価をいただいております。

分野としては、コンシューマ向け製品から特殊分野で用いられる装置まで多岐に渡り、範囲をみても、ソフトウェアに留まらず、ハードウェアの研究・試作・量産設計の技術協力など、多様に開発を展開しております。昨今では、さらに技術の幅を広げ、業務システムやウェブシステム開発にも力を入れており、マルチレイヤーのシステム開発をワンストップ受注できる体制を確立いたしました。

近年の経営状況としては、2009 年は景気悪化の影響を避けられず、第 28 期において減収

減益と不本意なものとなりました。

今では、全盛期までには至らないまでも、売上、利益ともに順調に回復しております。また、主体のエンジニアリング事業をより充実させつつ、新規事業への投資を行い、ソーバルのさらなる発展に寄与する取り組みに力を入れております。

そして現在も無借金経営の強固な財務体質を維持しております。

1983 年創業以来の、「技術で社会に貢献する」というソーバルの理念は、今後も変わらず貫いていきます。社会との結びつきとして、技術だけではなく様々なボランティア活動など、社会に愛され、貢献できる姿を描き、成長してまいります。



ソーバルはすべてのステークホルダーの皆様から、より一層の信頼の獲得と、期待にこたえるべく、全社一丸となって邁進してまいります。

今後とも、変わらぬご支援とより一層のご鞭撻を賜ります様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2011年5月
代表取締役社長

推津 順一

5

Greetings

ソーバルの事業

当社は、ファームウェア、ソフトウェア並びにハードウェアの開発及び評価に関するサービスを、当社従業員の特定派遣及び業務請負により提供するエンジニアリング事業を主な事業として展開しております。

また、その他事業として「RFID」分野に関する製品の製造、販売及びソリューションの提供を行っております。



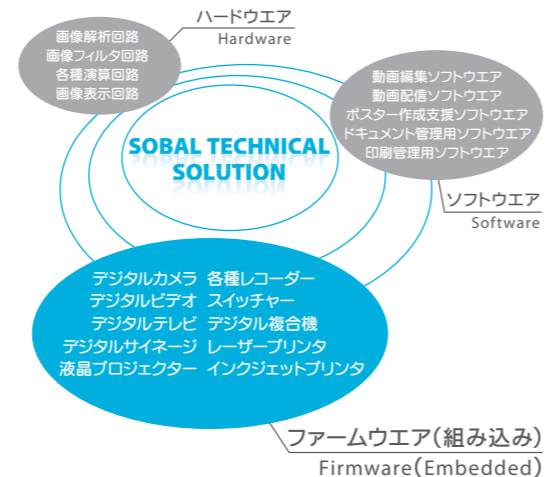
▲事業系統図

エンジニアリング事業

主として、デジタル製品メーカーに対し、ファームウェア、ソフトウェア並びにハードウェアの「開発」を支援するサービスを提供しております。同時に、開発中の試作品の不具合や仕様誤りをプログラムレベルで評価・検証したり、生産前の製品の品質評価をする「評価」サービスも併せて提供しております。また、デジタル製品メーカー以外にも、精密機器や電子機器メーカーに対して、同様の技術支援サービスの提供を行っております。ソフトウェアでは、デジタル製品のアプリケーションツール

やドライバの開発のみならず、Web アプリケーションの開発にも携わっております。ハードウェアでは、LSI や DSP の設計・開発、周辺回路設計、さらに構造設計や機構設計の研究・試作・量産設計を開発範囲としております。

併せて、組み込みソフト開発において培われた技術基盤により、製品開発コスト管理支援ソリューション、組み込みシステム設計支援ソリューション、SoC 設計支援ソリューション、ソフトウェア製品化支援ソリューション、基板装置試作・量産支援ソリューション等の各種コンサルテーションを提供しております。



▲事業内容と実績例

その他事業 (RFID事業)

その他事業として現在、「RFID」分野に関する製品の製造、販売及びソリューションの提供を行っております。「RFID」は、電波及び電磁誘導方式を用いた非接触型の自動認識技術であり、物流・在庫管理等の分野において利用されております。

事業の紹介と第29期のセグメント別業績概要

エンジニアリング事業

エンジニアリング事業は、お客様の職場にエンジニアを提供する「特定派遣」と、お客様からのご依頼を受け、ソーバル社内でシステムの設計開発を行う「業務請負」があります。

第29期概要

エンジニアリング事業の売上高割合は全体の98.7%を占めており、内訳は特定派遣が62.5%、業務請負が36.2%となっております。「特定派遣」と「業務請負」の二つの業務形態があることが、社員のスキルアップにつながっています。「特定派遣」においては、最先端の技術に触れることによるスキルアップ、「業務請負」においては、進捗管理や利益管理などプロジェクト運営にかかわるスキルアップが可能です。

バランスのとれた社員育成を継続的に行うことで、質の高いサービスの提供を行ってまいります。

その他事業 (RFID事業)

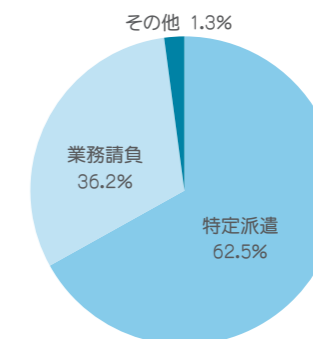
その他事業として、ソーバル社内の「知」から生まれたRFIDソリューションビジネスに取り組んでおります。

第29期概要

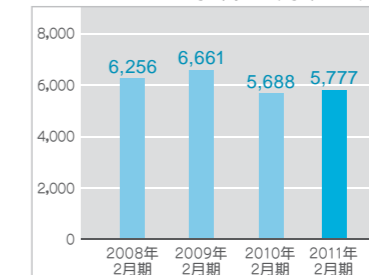
当社には個々に磨きあげられた専門技術を有したエンジニア（無線通信の技術者や、回路設計の技術者など）が数多く在籍しております。当社に入社する前には、ロケットを開発していたようなエンジニアも在籍しております。その結果、いろいろな側面から顧客の要望に応えることができ、幅広い受注が可能となっております。

また、従来のエンジニアリング事業では得られない、新しい顧客とのつながりをもたらしています。今後も、新規顧客の開拓に重要な役割を果たしてくれることになるでしょう。

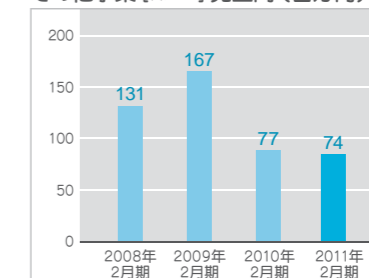
2011年2月期 (第29期)
売上高内訳 (5,852百万円)



エンジニアリング事業売上高 (百万円)



その他事業 [RFID] 売上高 (百万円)



第29期の総括

Summary of the 29th term

当事業年度におけるわが国経済は、高い成長を続ける新興国向け輸出の回復や政府の景気対策の効果等により、景気改善の兆しが見られるものの、長引く円高やデフレの影響、厳しい雇用・所得情勢から個人消費が低迷するなど国内需要の回復は依然として弱く、先行きの不透明感が払拭されない状況で推移いたしました。

このような経済環境の中、当社のエンジニアリング事業に関しましては、主要顧客の業績回復や技術者ニーズの増加が見受けられ、抑制気味でありました残業も増加傾向となりました。また、請負業務に関しましては、業務系及び Web 系のアプリケーション開発において、積極的な営業活動の効果が見え始め、着実に新規案件を獲得してまいりました。これらの結果、エンジニアリング事業の売上高は 5,777 百万円（前年同期比 1.6%増）となりました。

一方、その他事業における RFID 事業に関しましては、上半期においては、昨年度から続く設備投資の抑制の影響で低調に推移しておりましたが、下半期より案件の引合い・受注が増加した結果、売上高は 74 百万円（前年同期比 4.0%減）となりました。

以上の結果、売上高は 5,852 百万円（前年同期比 1.5%増）となりました。

利益面においては、抜本的な組織の改編が案件情報の一元管理、適切な人員配置、待機工数の削減に大きく寄与いたしました。

その他にも請負業務の作業効率化、大幅な経費圧縮に取り組んだ結果、黒字に転換し、営業利益は 227 百万円（前年同期 16 百万円の営業利益）、経常利益で 239 百万円（前年同期 19 百万円の経常利益）、当期純利益で 124 百万円（前年同期 19 百万円の当期純損失）となりました。

	2010年2月期 (第28期)	2011年2月期 (第29期)	前年同期 増減比
売上高 (百万円)	5,766	5,852	1.5%↑
営業利益 (百万円)	16	227	-%↑
経常利益 (百万円)	19	239	-%↑
当期純利益又は 当期純損失(△) (百万円)	△19	124	-%↑
総資産 (百万円)	2,221	2,472	11.3%↑
純資産 (百万円)	1,778	1,887	6.2%↑
一株当たり当期純利益又は 当期純損失(△) (円)	△8.89	57.42	-%↑
一株当たり 純資産(円)	818.83	869.25	6.2%↑
一株当たり 配当金(円)	10.00	17.00	70.0%↑

今後の見通し

Future Prospects

第30期の展望

当社は、平成 24 年2月期より連結決算を開始いたしますので、当社グループに関する次期の見通しを記載いたします。

東北地方太平洋沖地震による被害状況につきましては、現時点では、当社グループの人的被害、事業遂行に支障をきたすシステム機器の損傷や障害はございません。しかしながら、当社グループの自社拠点及び常駐先顧客の事業所は関東地方に集中しており、今後何らかの事由により業績に影響が出る可能性があります。

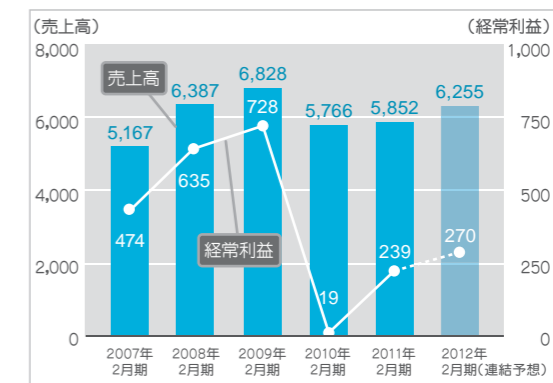
このような先行き不透明な状況の中では、顧客からより高い信頼を得ることが必要であり、そのためには今まで以上に新しい技術や発想を提供することが必須であると考えております。従いまして、当社グループではより強固な従業員への教育を施すと同時に、更なる作業の効率化や作業の標準化を進め、利益率を高めてまいります。

また、顧客の業績に左右されない体制を構築するために、自社製品や自社サービスの開発と展開を積極的に進めてまいります。

さらに、Web 系システム開発に強みを持つ株式会社コアードを平成 23 年3月1日付で完全子会社化いたしました。Web系システム開発は、当社グループの事業戦略上、重要な位置付けとなっており、より積極的な事業展開と収益拡大を目指します。

これらを踏まえ、連結売上高 6,255 百万円、

連結営業利益 270 百万円、連結経常利益 270 百万円、連結当期純利益 163 百万円を見込んでおります。



▲売上高、経常利益の推移予想 (百万円)

今後のポイント

- Point 1 新規顧客先での信頼を獲得し、受注増を目指す
- Point 2 請負業務の効率化をすすめ、利益率の向上を図る
- Point 3 採用活動の強化。販路、人材のための M&A の検討

ソニーの戦略

Our Strategy

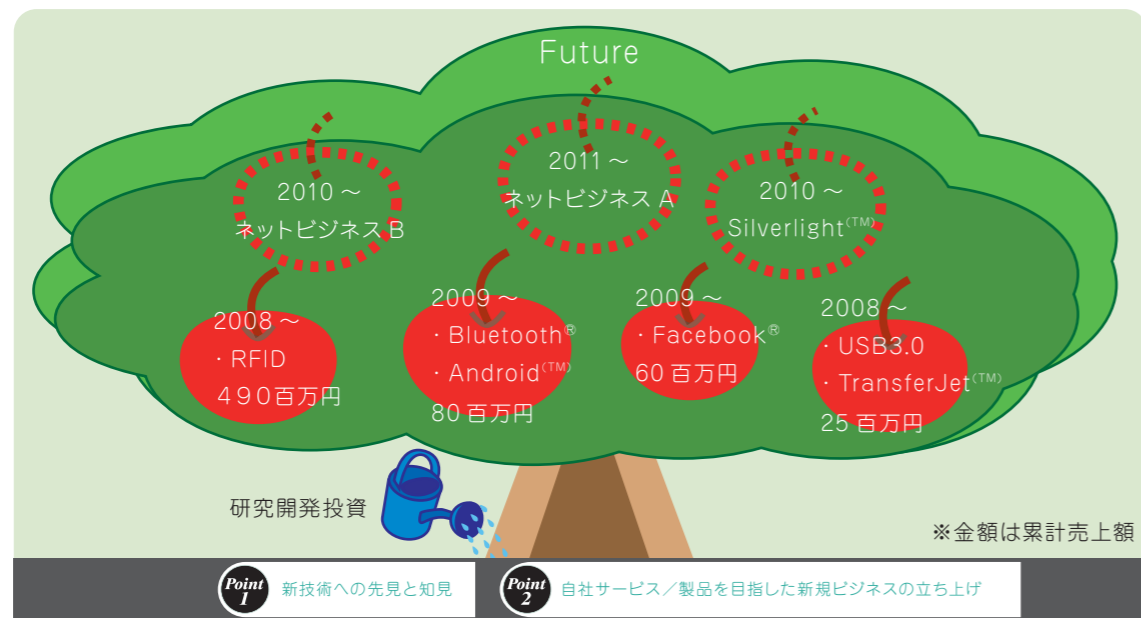
中長期的戦略について

昨今、優秀な人材の確保が大変難しくなっております。当面は、人材育成や業務の効率化などで増収増益を目指してまいります。いずれ労働集約型ビジネスとは違った形の収益の柱を作りたいと考えており、数年前に始めたRFIDビジネスもこの方針に基づいたものです。RFIDビジネス以外にも研究開発投資を行っており、その投資は大きく二つあります。一つは、新規ビジネスを立ち上げるというものです。そしてもう一つは、今後注目されると考えられる技術に対し、先行して知見を積むというものです。

新規ビジネスは、現在二つほど進行させておりますが、

既存ビジネスとの兼ね合いもあり、ある程度の売上が見込めた段階でのご紹介とさせていただきます。

もう一つの技術開発については、数年前より行っていた Android や Bluetooth など、今期 80 百万円程の売り上げを見込んでおります。また Facebook 関連についても 60 百万円程の売り上げを見込んでおります。さらに Android については、アプリ以外にも下層レイヤーについてのノウハウがありますので、今後、電化製品等に Android が搭載されるようになってくれば、当社の技術に対するニーズは高まっていくものと思われま。他には Adobe Flash に替わる技術として Microsoft の Silverlight に注目しており、技術者の育成を急いでおります。



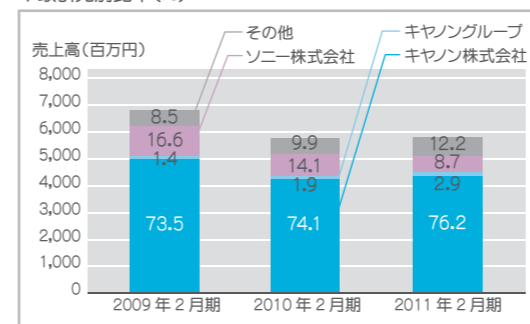
キヤノン様に加えソニー様等他社への取引実績の拡大

現在キヤノン様との取引が大半を占めていますが、数年前よりソニー様をはじめとして他企業との取引を増やし、1社依存体制からの脱却を図っております。

売上の構成比としてはソニー様が減少し、キヤノン様、その他が増加する結果となりました。

その他については、新規に開拓した顧客からの受注が増加し、前年同期比 25.3% 増という結果となりました。

▼取引先別比率(%)



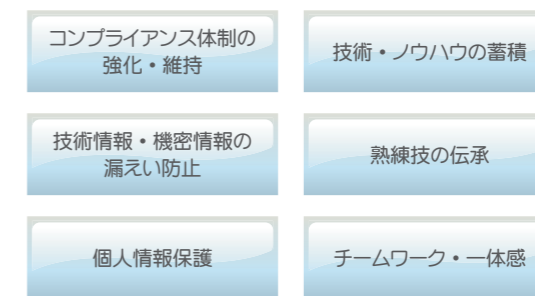
主要取引先	売上高 (百万円)	前年同期増減比
■ キヤノン株式会社	4,461	4.4% ↑
■ キヤノングループ	169	5.6% ↑
■ ソニー株式会社	511	△ 37.3% ↓
■ その他	710	25.3% ↑

お客様の信頼を得るために

ソニーでは、自社の技術力維持や雇用の安定のため、「特定労働者派遣」を採用しております。業務を担当するエンジニアはすべてソニーの正社員です。

正社員は雇用の安定性が高いため人材が流出しにくく、長期的な視野での教育も可能となります。

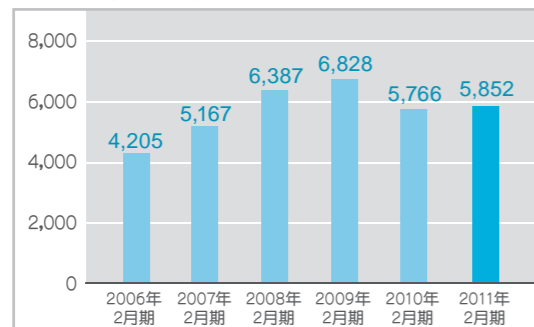
そのため、お客様から高い安心と信頼を得られております。



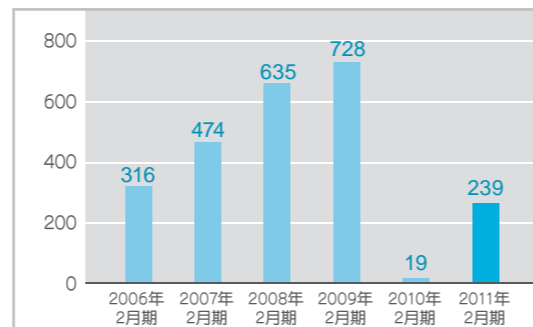
特定労働者派遣とは

「特定労働者派遣」とは、常用雇用労働者（正社員）だけを労働者派遣の対象とする労働者派遣形態です。

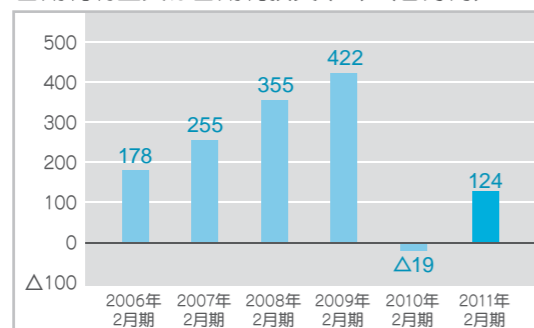
売上高（百万円）



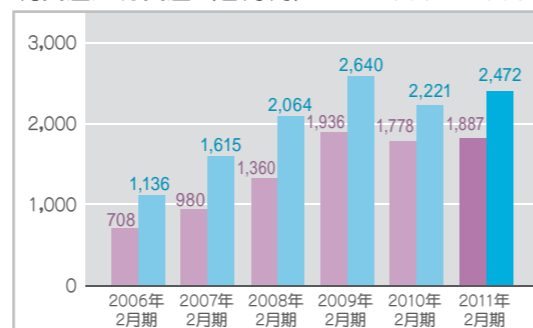
経常利益（百万円）



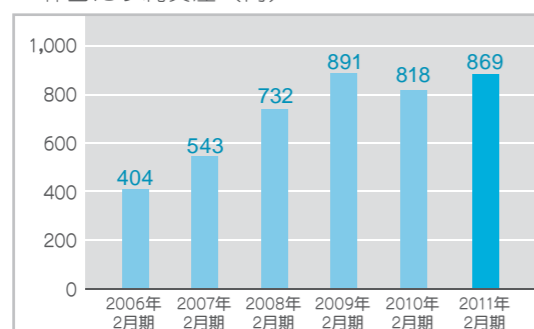
当期純利益又は当期純損失(△)（百万円）



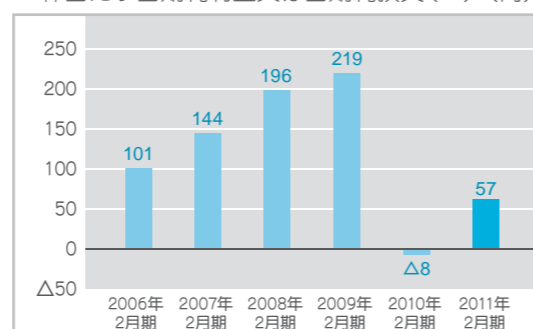
純資産／総資産（百万円） ■ 純資産 ■ 総資産



一株当たり純資産（円）



一株当たり当期純利益又は当期純損失(△)（円）



損益計算書

（単位：百万円）

科目	2010年 2月期	2011年 2月期	比較増減
売上高	5,766	5,852	85
売上原価	4,821	4,829	8
売上総利益	945	1,022	77
販売費及び一般管理費	929	795	△133
営業利益	16	227	211
営業外収益	4	12	8
営業外費用	0	0	0
経常利益	19	239	219
特別利益	0	—	0
特別損失	0	5	5
税引前当期純利益	20	233	213
法人税、住民税及び事業税	3	125	121
法人税等調整額	36	△15	△52
当期純利益又は当期純損失(△)	△19	124	144

売上高

適切な人員配置、待機工数の削減に取り組んだ結果、売上高が増加いたしました。

当期純利益又は当期純損失(△)

組織改編と適切な人員配置により、稼働率を引き上げましたことで、生産性を向上させ、合理化を図ることで前年を上回る高利益率と売上高増を実現することができました。

キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	2010年 2月期	2011年 2月期	比較増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△218	344	563
投資活動によるキャッシュ・フロー	7	△16	△24
財務活動によるキャッシュ・フロー	△138	△15	123
現金及び現金同等物の増減額	△349	312	662
現金及び現金同等物の期首残高	1,253	903	△349
現金及び現金同等物の期末残高	903	1,216	312

現金及び現金同等物の期末残高

事業前年度に比べ 312 百万円増加しております。主に、税引前当期純利益 233 百万円の計上、法人税等の還付額 150 百万円によるものです。

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	2010年 2月期	2011年 2月期	比較増減
(資産の部)			
流動資産	1,947	2,208	260
固定資産	274	264	△ 10
資産合計	2,221	2,472	250
(負債の部)			
流動負債	385	517	131
固定負債	57	67	9
負債合計	443	584	140
(純資産の部)			
資本金	212	212	—
資本剰余金	117	117	—
利益剰余金	1,448	1,558	109
自己株式	—	0	0
株主資本合計	1,778	1,887	109
純資産合計	1,778	1,887	109
負債純資産合計	2,221	2,472	250

総資産

前年同期比 250 百万円増となりました。主に現金及び預金が 312 百万円増となったことによるものです。

純資産

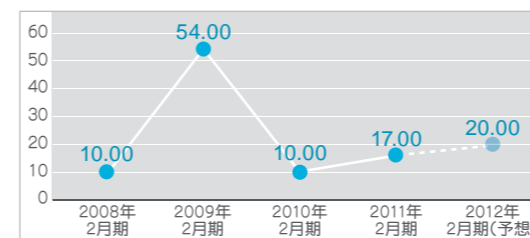
前年同期比 109 百万円増となりました。主に当期純利益の計上によるものです。

配当政策

総分配性向 (%)

総還元額 (配当金 + 自社株買い) ÷ 総利益

一株当たり配当金の推移



▲年間一株当たり配当金推移グラフ (円)

(基準日)	一株当たり配当金			配当性向
	第2四半期末	期末	年間	
2012年 2月期(予想)	10円00銭	10円00銭	20円00銭	29.3%
2011年 2月期	7円00銭	10円00銭	17円00銭	29.6%
2010年 2月期	10円00銭	00円00銭	10円00銭	—%
2009年 2月期	—	54円00銭	54円00銭	27.7%
2008年 2月期	—	10円00銭	10円00銭	5.2%

株主情報

株式の状況

(2011年2月28日現在)

発行可能株式総数	7,400,000 株
発行済株式総数	2,171,900 株
株主数	581 名

株式分布状況

(2011年2月28日現在)

◇所有者別情報



◇所有株式数別情報



※単元未満株式数を除いて集計しております。

大株主

(2011年2月28日現在)

氏名又は名称	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
川下 奈々	499,360	22.99
推津 敦	499,360	22.99
ソーバル従業員持株会	388,200	17.87
推津 順一	251,720	11.59
推津 幸子	221,560	10.20
田辺 博文	24,000	1.10
新田 顕祐	20,000	0.92
田辺 円香	12,600	0.58
大阪証券金融株式会社	11,600	0.53
福島 則光	10,000	0.46
計	1,938,400	89.23